

●議員改革特別委員会研修 浅沼 碧海

令和7年8月8日 13時30分～15時30分

目的 議会改革と主権者教育 研修

演題 『議会改革の最新トレンドと主権者教育

ー議会と住民の関係をより深くしていくためにー』

講師 (株)自治日報社 記者 NPO法人DAKKO 事務局長

総務省 主権者教育アドバイザー

高橋 一之 氏

成果

今回の研修は、議会改革特別委員会主導のもと、初の外部講師を八丈島に招いての研修であり、当初は議員のみでの研修を想定していたが、講師の方よりご提案をいただき、ゲーム等を交えた研修内容（ワークショップ含）により、地域住民の皆様にも参加していただける場となり、和やかな雰囲気での研修となった。

講師を務めていただいたのは、株式会社自治日報記者であり、NPO 法人 DAKKO 事務局長・総務省主権者教育アドバイザーも兼任されている高橋一之氏。真田議会改革特別委員会委員長との繋がりで、今回の研修が開催される運びとなった。

研修の内容は、前半は資料を見ながらの高橋氏による「議会改革の最新トレンドと主権者教育」について、質疑を交えながらの講演。後半はNPO 法人 DAKO が制作された「まちづくりゲーム」を行った。

・議会改革の最新トレンドと主権者教育

講演では、議会改革の最新トレンドとして、先進事例を参考にしながら、議会広報の充実・広聴活動・災害時の対応・ハラスメント防止・一般質問の充実化・主権者教育の推進・議員の成り手不足について説明をいただき、その中でも議会広報の充実、広聴活動の事例、主権者教育の推進について学んだ。3点を通して言えることは、議会と住民の関係を身近にし、住民が議会を理解するための場づくりを行なっていくことが求められているように感じた。資料のアンケート結果では半分以上の方が議員は何をしているかわからないと回答している。実際、私自身も議員になってみて、初めて理解する事が多い。また八丈町議会議員12人のそれぞれのキャラクター・役割においても、一番年齢が若く SNS 等での発信に慣れ親しんでいる世代の自分に求められていることも自負している。人材不足で議会事務局も1人定数が少ない中での運営となっているが、議会改革特別委員会や、今後新しい委員会の設立、最新のテクノロジー等を利用して、事務局の負担を減らしながら、議員自らが中心となって行なってい

ける、議会の「見える化」を行なっていかなければならない。先進地区の事例を参考にし、八丈島に合ったやり方を見出していきたい。

・ワークショップーNPO 法人 DAKKO の「まちづくりカードゲーム」

それぞれ特徴を持った4人の町長のもと、10枚の政策カードが配られ、任期4年の中でA子育て・教育、B健康・福祉、C産業・経済、D環境・暮らし、E観光・文化のポイントを稼いでいく、人生ゲームとカードゲームを掛け合わせたようなワークショップを行った。議員と住民が混ざり4つの班に分かれ、ランダムで選ばれた町長に配属される。そのなかでA～Eのポイントをあげられる10枚の政策カードの中で、町長の特徴や班の中で力を入れたい事などでカードを選びポイントを重ねていく。司会より任期4年の中で4つの時代背景が反映され、ポイントに影響されるようなゲームである。

高橋氏の図らいでゲーム内容には、八丈町の背景や有名な地区のリーダー像が反映されており、とても親しみやすく学びながらゲームを行う事ができた。

興味・関心の導入をゲームにして間口を広げていく。そこに学びがある秀逸な方法だと感じさせられた。

議会の中でも、今後学校で議会や議員という職業を身近にできるような取り組みができないかと話もしている。主権者教育＝住民が国や社会の問題に自分事として捉え、自ら考え、判断し、行動していく「主権者」を育成するための教育。議会や議員の活動によって興味・関心を持っていただくことも議員の役割の一つであると改めて感じさせられた。その色々なやり方を見せていただいた講演とワークショップであった。